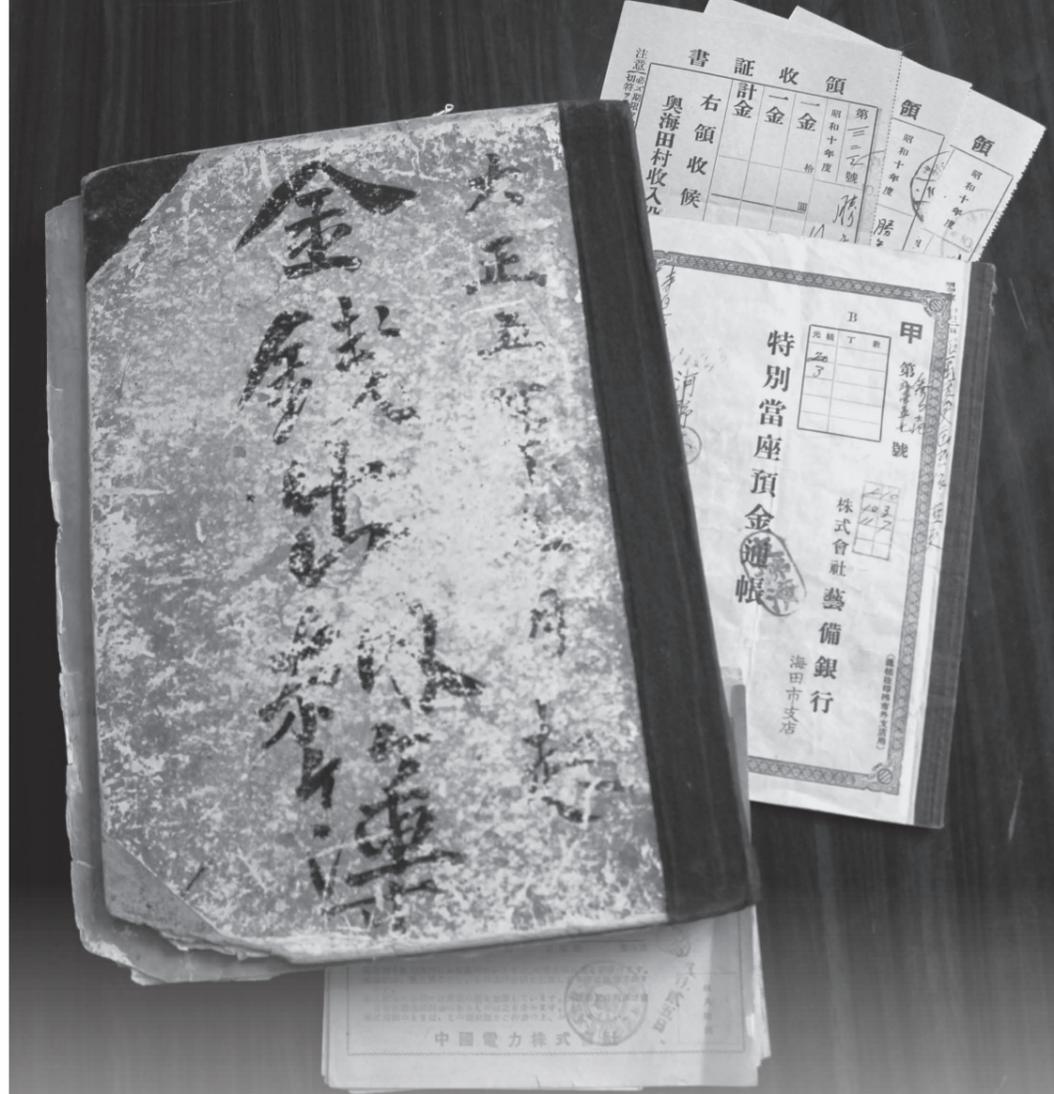


# 自治会の歴史

寺迫自治会の歴史をひも解く

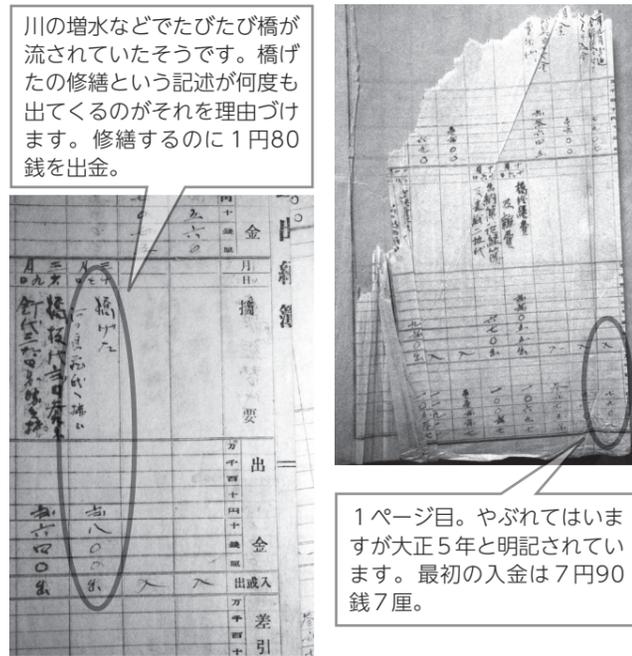


現在の風景 日浦山のふもとから申山を望む

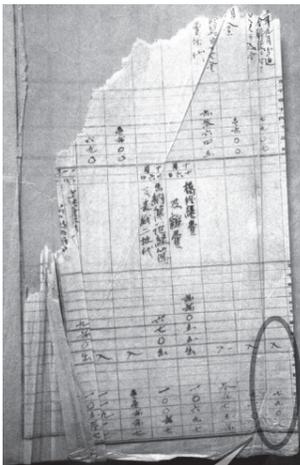


昭和20～30年代当時の風景

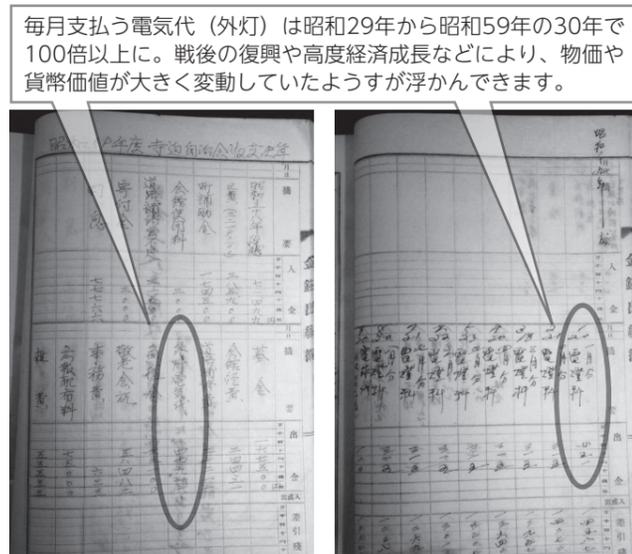
約1世紀前使われていた寺迫自治会の金銭出納簿。当時の状況や貨幣価値が読み取れます。今月1日より海田東公民館で展示しますので、ぜひご覧になってください。昔の懐かしい情景が目につかれますよ。



川の増水などでたびたび橋が流されていたそうです。橋げたの修繕という記述が何度も出てくるのがそれを理由づけます。修繕するのに1円80銭を出金。



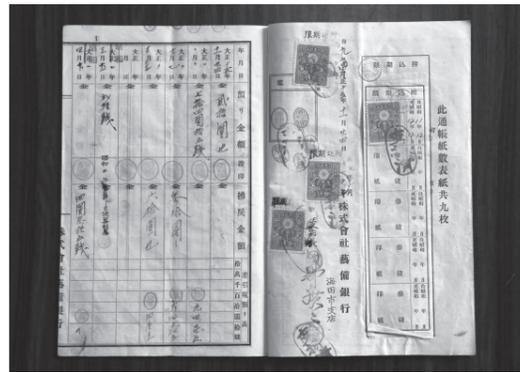
1ページ目。やぶれてはいますが大正5年と明記されています。最初の入金は7円90銭7厘。



毎月支払う電気代（外灯）は昭和29年から昭和59年の30年で100倍以上に。戦後の復興や高度経済成長などにより、物価や貨幣価値が大きく変動していたようですが浮かんできます。

昭和59年は外灯電気代  
47,916円

昭和29年は電燈料  
451円



芸備銀行（現広島銀行）の通帳

## ● 当時を振り返って

30年前から寺迫自治会の役員を務めてまいりましたが、当時の自治会は大変盛り上がりしていました。年に1度開催される敬老祝賀会では寺迫会館で遅くまでドンチャン騒ぎで、当時の町長も出席したりしていました。現在はすべてパソコンで行っている帳簿付けですが、手書きで残っているというのは大変貴重だと思えます。これからも大切に保管し、後世に残していきたいと考えています。また、自治会では毎月1回は行事などを開催し、地域活動を欠かさないよう努めています。出崎森神社の1300年祭の準備も大変です。会員の皆さんには本当によく頑張ってもらっています。



寺迫自治会長の神田さん

## 百組寿クラブとは

現在の寺迫、稲葉、汁免、朝陽の4自治会を百組自治会と言います。その地域に100軒の家があったことからこの名称がつけられたそうです。今でも4年に一度当番が回ってくる出崎森神社の秋祭りの時には百組自治会として協力し合って祭りを盛り上げています。そんな「百組」という名称は地域に根付いたものであり、その中から60才以上のメンバーを募り、百組寿クラブを設立。今年で43年を迎えました。



百組寿クラブ設立43周年記念式典での一幕